

2015 年 9 月 5 日～6 日

白峰三山山行報告書

M0 上村拓

【参加メンバー】

M4 田中 M0 上村 林 計 3 名

【コースタイム】

9 月 5 日（土） 広河原 06:50～08:50 白根御池小屋～09:30 大樺沢二俣～11:25 八本歯の科尔～12:35 北岳
～14:20 北岳山荘

9 月 6 日（日） 北岳山荘 04:50～05:20 中白根山～06:10 間ノ岳～07:00 農鳥小屋～07:40 西農鳥岳～08:15
農鳥岳～08:50 大門沢下降点～11:00 大門沢小屋～13:30 大門沢登山口～14:15 奈良田駐車場

【本文】

白峰三山は高校時代に一度志した縦走である。当時はパーティーの 1 人が体調を崩し北岳も踏まぬまま撤退した。以来是非ともリベンジしたいと願っていたが、丁度田中先輩も北岳に行きたいとのことであったので検討すると、やや強行と思われた一泊二日の日程は奈良田を起点にすれば可能であることが分かりすぐに計画した。同学年の林君も加え三人での山行である。

奈良田駐車場からバスで広河原へ。天気恵まれ幸せな気分歩き出す。広河原山荘の横を抜けていくとすぐに大樺沢との分岐である。沢沿いは悪天の時が怖かったので今回は御池ルート。無論池が見えなかったということもある。分岐からすぐなかなかの急登である。ぜいぜいいいながら登っていき、2 時間弱で御池小屋に着く。荷物を置いてさて池でも見に行こうかとしたときに、小屋の従業員さんたちがなにやらものすごく慌てている。と思うとヘリの轟音が聞こえてきた。物凄い風に思わず帽子を押さえつつ小屋を見ればなんとおいてきたザックまで飛ばされて転がっている。真にたまげたものだ。なんでも予定時間の 1 時間前にヘリが来てしまったそうで、その後 3 度ほど来襲、従業員さん大忙し。我々は小屋の中に避難させられていた。そそくさと小屋を後にし、だらだらとトラバースして大樺沢と再会。北岳バットレスがかっこいい。行ってみたいなあとかくがれつつ左俣コースつまりは八本歯の科尔への突き上げへ。下から覗くと急で長い登りに見えるが、登り始めるとやっぱり急で長いのである。ゴロゴロした沢を抜けたかと思うと木のハシゴ、木のハシゴ、木のハシゴ...その後ようやく八本歯の科尔である。ここまで来てしまえば山頂まではあと 1 ピッチ。4 年越しの北岳山頂である。展望やよし、鳳凰三山や甲斐駒、仙丈が望めた。山頂を後にし稜線を心地よく下っていくと 1 時間足らずで北岳山荘である。風が少し強いのは目を瞑ることにしてさっさと設営し、小屋の前でビールをいただく。北岳、間ノ岳が綺麗に見える。無上の幸せである。しばらくのんびりした後寒くなってきたのでテントに引っ込み夕飯。明日の縦走を楽しみにそのまま就寝。

明朝はまだ夜も明けやらぬうちから出発。この日は曇り。ガスっていて視界は良くない。広い稜線を歩き 30 分ほどで中白根山に到着。しかしここからの道がなかなか分かりにくい。他パーティーがマーカーを見つけたので落着いたが、地図で見るより急角度で道が折れているような気がした。やはり 5 万分

2015 年 9 月 5 日～6 日

の 1 では広域すぎるか。間ノ岳までの稜線でガスが晴れ美しい富士のシルエットが望めた。頭に雲がかかっていたのがちと残念ではあったが。1 時間かからず間ノ岳。風が強く吹いている。記念撮影の後は農鳥小屋へ向けた下り。400m 近く下るもので、小屋が見えてから意外と遠い。少し次の登りが億劫な気になる。ともあれ農鳥小屋。いろいろ噂の農鳥小屋。名物親父は見えなかった。ここから西農鳥は近く見える。そこそこの登りを越えて 40 分ほどで西農鳥岳である。農鳥岳より標高が高いのは何か釈然としないものを感じる。振り返ると歩いてきた稜線に北岳、間ノ岳が綺麗に見える。農鳥までの道は岩稜である。時折現れる面倒な箇所をえっちらおっちら通過して、農鳥岳である。標高を上げないので楽なものだ。来てみるとやはり農鳥は 100 名山にはなれないよなあという感じがした。しかしこれで白峰三山をつなぐことができた。わーい。あとは下るのみである。トラバース気味に大門沢下降点へ。ここで若くして亡くなった方の両親が立てたという鐘が。一つ鳴らして急な下りへ。何やら旧道もあるらしいが普通に道なりをゆく。地図上では短そうに見えるのに酷く長く感じた下りであった。天気が崩れそうで焦っていたのかもしれない。案の定パバリと雨の気配。来るかな、と思っているうちに沢の音。大門沢の右岸に出るまでが長かった。そこから 1 時間弱で大門沢小屋。まだ強い雨は来ない。大門沢小屋はなぜこんなところに、という中途半端な感じのする場所にあるのだが、きちんとした小屋である。シャワーまであった。下で釣客に出会ったことを思えば釣りの方も来るのだろうか。小屋に大所帯らしいパーティーが休んでいたので雨具を付け早めに立ち去る。何ヶ所か木製の橋が架かっていたが、どうやら腐りかけているものもあり、一つ完全に折れていたものもいて、少し危ない渡渉を強いられた。恐ろしや。もう 1 時間と少しだろうかと言ったところで雨が強くなってくる。今いるところが現在地であることしか教えてくれない看板を横目にどうにかこうにか下りていく。最初の吊り橋を越えたあたりで工事をしており均された道を抜けて行く。そこからすぐに登山口であった。簡易休憩所のようなところで一服。雨具の下は履かなくていいだろうとサボっていたらすっかりびしょぬれ。暗い気持ちで奈良田へ車道を歩く。45 分ほどで駐車場。奈良田温泉で冷えた体を温め都内へと帰るのであった。

